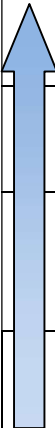


(2) 環境学習プログラム② テーマ「自分のくらしの中の省エネについて考えよう」

時間	1時間（1単位時間は45分）	1時間		
本時のねらい 自分のくらしを見つめ、自分ができる省エネについて考えることができる。				
実施を想定する学年・教科				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 理科〔第4学年〕：A 物質・エネルギー (3) 電気の働き ○ 理科〔第6学年〕：A 物質・エネルギー (4) 電気の利用 ○ 家庭〔第6学年〕：D 身近な消費生活と環境 ○ 総合的な学習の時間における環境についての学習活動の一部としても実施可能 				
環境学習プログラム②を通して児童に身に付けさせたい「つきたい力」				
学習内容 段階	人間と自然環境・人間と人間・人間と社会とのかわりに関すること	科学的な視点を踏まえた、客観的かつ公平な態度に関すること	環境にかかわる内面の成長に関すること	
	参加する態度の育成	○環境に配慮した生活スタイルを確立できる		
	問題解決能力の育成	○仲間と協働できる	○想像力と責任感を持つことができる	
	理解の深化	○多様な社会や文化、価値観を理解できる ○自己の考えを他の人の考えと比較できる	○大量生産・大量廃棄がもたらす資源の枯渇を理解できる	○自己有用感を実感できる
	関心の喚起	○自己の考えを表現できる	○身の回りの出来事から問題を見つけることができる	

本時の指導の流れ

	主な学習活動	指導上の留意点及び支援の工夫
導 入	1. 家庭の中で、電気や資源を無駄遣いしている場面を考える。 2. 電気や資源の無駄遣いをしない方がいいのはなぜかを考える。 3. 省エネの方法にはどのようなものがあるかを自由に挙げる。	○読本「私たちのくらしとエネルギー（山形県のHPからダウンロードできます）」p. 3～p. 4をみて、電気や資源の無駄遣いをピックアップする。 ○家計といった金銭的な部分だけではなく、地域や県などの視点で考えたり、エネルギー問題や資源枯渇の問題としてとらえたりできるよう支援する。 ○班の中で省エネの方法についてのブレインストーミングを行い、省エネについての多様な意見を認め合う。 ○出てきた意見を「学校」「家庭」「学校と家庭」というカテゴリーに分類する。

		○児童自身がどれくらい取り組んでいるかを 問いかけ、自分の問題としてとらえさせる。
	本時の課題 「私たちの生活を省エネの視点から見つめ直そう。」	
展 開	<p>4. 学校及び家庭での自分自身の生活について省エネチェックをする。(時間が無い場合は、どちらか一方だけでよい。)</p> <p>5. 省エネが環境の保全にどのようにつながるのかを知る。</p> <p>6. 自分たちができる省エネ方法について班で話し合う。</p> <p>4. 「学校」「家庭」「学校と家庭」において、これは必ず取り組んでいきたいと考えた取組みについて発表し合う。</p>	<p>○読本「私たちの暮らしとエネルギー」 p. 15～p. 16をコピーし、「省エネチェックシート(学校編)」として配付する。</p> <p>○「省エネチェックシート(学校編)」を用いて班で話し合いながら、学校での省エネをチェックさせる。</p> <p>○読本「私たちの暮らしとエネルギー」 p. 13～p. 14をコピーし、「省エネチェックシート(家庭編)」として配付する。</p> <p>○「省エネチェックシート(家庭編)」を用いて一人一人に、家庭での省エネをチェックさせる。</p> <p>○読本「私たちの暮らしとエネルギー」 p. 17をコピーしたプリントを配付し、採点させる。</p> <p>○「私たちの暮らしとエネルギー」 p. 12を活用し、解説する。</p> <p>○班の中で、「学校」「家庭」「学校と家庭」において、これは必ず取り組んでいきたいことを決める。その際、その取組みを選んだ根拠をはっきりさせる。</p> <p>○2～3班を指名し、「学校」「家庭」「学校と家庭」というカテゴリーごとに、班から出された取組みについて整理する。</p>
ま と め	5. 自分の考えをまとめる。	○より具体的に自分の生活と関係付けて取組みを考察させる。

参考URL (授業において資料を作成する際に活用してください。)

- 笑顔で省エネ県民運動「省エネ・再エネ・節電」家庭のアクション
(山形県地球温暖化防止活動推進センター) http://eny.jp/syo_ene2013/index.html
- 温暖化防止メニューとCO₂削減量 <http://www.team-6.jp/try-1kg/calculate/>